

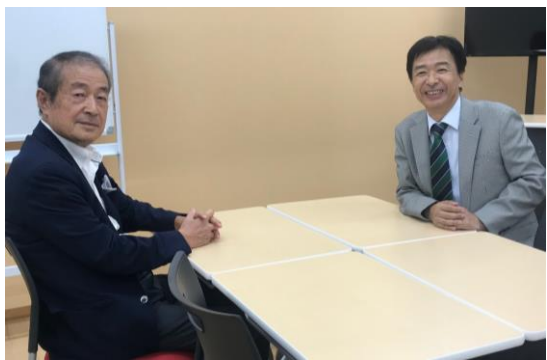
# 留學生新聞

〈TSA 新学科開設 TOPICS(連載第2弾)〉

## 留學生が活躍できる日本社会を目指して ——特別対談「新時代に求められる国際人材とは？」——

専門学校東京声優アカデミー（TSA：東京都渋谷区恵比寿）が2020年4月に新設する「国際コミュニケーション学科」は、「グローバル人材育成のモデル校」を旗印に、外国人留學生の日本国内就職と、編入学・進学を全面的にサポートする構想で関係者の耳目を集めている。では、ビジネスの多国籍化と少子高齢化を背景に、昨今、日本社会で急速にニーズが高まっている「グローバル人材」の実像とはいったいどのようなものなのか。

本稿では9月1日号に続く連載第2弾として、中国人留學生にも馴染みの深い芸能文化の領域で長年活躍中の稲垣博司・元エイバックグループホールディングス株式会社取締役役と、市原光敏・TSA 理事長との対談により、新時代に求められる国際人材像を探った。（以下、対談概要。敬称略）



### ★「自分で考える力」を身につける；新時代への心構え

——ここ数年、日本社会のグローバル化は猛烈なスピードで進行しており、従来人間が担ってきた仕事の領域が機械やロボットに代替されるなど、労働市場にも地殻変動がもたらされつつあります。まずはこの趨勢をどう捉えれば良いのでしょうか？

**稲垣：**最近、ある報道で、近未来の世界では一部の指導者とそれに従属する層の格差が拡大し、遠からずアルゴリズム（問題解決手法の定式化）の時代に突入するだろうという学者の大胆な予測が披露されていました。AI（人工知能）を始めとした科学技術が急速に進化するこれからの時代、特に若い人たちは、どんなにシンプルな事象でも、自分の頭で主体的に考え行動していく必要性が高まるのではないかと思います。なぜなら思考を停止してしまった時点で、一部の支配層に全てを委ねてしまうリスクと背中合わせだからです。スマートフォン全盛の今だからこそ、目に見える事象だけでなく、常に自分の耳でも情報を取り込む必要があると、私自身が日々肝に銘じています。

**市原：**かねてから言われている通り知識を多く持つことも大切ですが、それ以上に自分で考える力を身につけることが、益々必要となる時代に入りつつあると思います。ロボットが人間の仕事をこなせる今だからこそ、偏差的な知識ではなく、一人一人が自分でモノを考えることを重視した教育が必要です。各人に考える力が備わっていれば、例えば元来同一のモノであっても、それぞれの価値観を通じて全く別のモノへと昇華させることも可能となるでしょう。それがまさに、現在の混沌としたグローバル時代を生き抜くために求められる要素ではないかと考えています。

### ★異文化のハードルと向き合う；グローバル化の軌跡

——いわゆるグローバル化、国際化が叫ばれるようになってから、かなりの時間が経過しました。この間、日本企業の最前線では人材面を含め、どのように対応してきたのでしょうか？

**稲垣：**以前私が所属していたソニーグループの会社では、国際化が企業のスタンダードとなる遥か以前から、経営者が自ら米国等の海外に赴いて英語で商談を行い、人材面では帰国子女を積極的に登用するなど、グローバルな土壌がありました。一般的に、国際ビジネスに携わっていくとする時にはまず言語の問題があり、さらに相手国の文化をどう理解していくかという難題に直面します。こうした経験を通じて私が最初に学んだのは、英語力の面ではネイティブに太刀打ちできなくとも、自分の言葉ではっきりと意思表示することで、一定のコミュニケーションは成り立つということです。

**市原：**異文化のバックグラウンドを持つ者同士の、英語によるコミュニケーションという点では、確かに米国のような多民族国家は、言語に対し非常に寛容な面があり、外国人の英語でもすんなりと受入れてもらえる土壌があるように思いますね。

**稲垣：**アジアの国々も、一般的に英語への適応性が極めて高いのですが、その点、日本はどちらかというと立ち遅れていたとも言えるでしょう。後日、外資系企業で勤務し始めた時、そのことを痛感させられました。私が長年身を置いている日本の音楽業界では、伝統的に邦楽のみで大半の収益を確保するビジネスモデルが確立していたので、たとえ外資系であっても日本勤務の場合には英語の優先度が低かったように思います。

**市原：**そうした環境も最近はダイナミックに変化し始め、英語を社内の公用語に定める日本企業も増えてきているようですね。

**稲垣：**本来あるべき姿に回帰し始めているということだと思います。ただ海外赴任については、本人が望まない場合に企業がそれを求めることはジョブ・ハラスメントにもなりかねず、容易ではない面がありますね。実際問題として、若者が海外へ留学しながら最近の潮流に、日本の指導者層が危機感を持っていることは確かでしょう。異文化との交流が先細りすると、「ネイチャー」等著名誌への学術論文掲載数やノーベル賞受賞者の数などにも直接影響を及ぼし、日本の国際的な地位を揺るがしかねないといった問題を孕んでいるからです。



### ★働き手不足と海外人材ブームの陰で；留學生採用の現状と課題

——ここ数年、留學生を始めとした海外人材が日本社会で急速に求められるようになった背景には、深刻化する働き手不足の問題が影を落としています。現状と今後の課題をどのように見えていますか？

**市原：**国の政策としても留學生の「受入れ30万人計画」があり、目下、卒業後の就職先の確保が大きな課題となっています。私自身は将来の日本を担う働き手不足に対処するため、外国人材を取り込もうとする政府の政策の方向性は適切だと考えています。とはいえ、現場で経営者層の声を聞くと、日本への適応力が高い留學生であっても採用を躊躇している企業がまだ少なくありません。多くの場合、ビジネス上必要とされる高度な日本語力の不足が大きな理由です。一方で、留學生の受入れや採用自体が、一部の企業や教育機関によるビジネスの対象となっているのは憂慮すべき事態です。日本へ留学してきた海外の若者が、安心して学び、就職し、将来

## 難関大学大学院 進学・編入学 / 日本での就職

TSA であなたの夢を実現しませんか？まずはご相談ください！

### ■個別相談会 ※要予約（好評実施中！）

日程：10月3日（木）、8日（火）、10日（木）、15日（火）、17日（木）、29日（火）、31日（木）  
時間：10：00～16：30の間、いつでもOK ※要予約  
場所：専門学校東京声優アカデミー  
内容：学科について、入試について、進路選択の方法についてひとりひとりの状況に合わせて丁寧にお話を伺います。

### ■入学試験日程

推薦入試：出願期間 受付中～1月31日（金）  
一般入試：出願期間 受付中～3月13日（金）  
定員：60名 ※日本人も含みます

### ■お問合せ先

専門学校東京声優アカデミー（TSA）国際コミュニケーション学科  
難関大学進学・編入セレクト グローバルビジネスセレクト  
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-5  
TEL 03-3719-0811 E-mail tsa-kokusai@tmaa.ac.jp



的には母国へその経験やビジネスモデルを持ち帰れる道筋をつくるのが、教育機関としての責務だと考えています。そのことが、ひいては日本の国際的な信用力の向上にもつながるのではないのでしょうか。

**稲垣：**人手不足を海外の人材でまかなうという壮大な実験においては、日本よりも、米国や豪州、ドイツが先行しています。むしろ日本の場合、国レベルでの事前調査や準備が全く足りない印象です。受け入れに伴う矛盾や問題点を一つ一つ解決しながら前に進めてきた諸外国の前例を、より深く研究すべきでしょう。人材とは別の、例えば電子決済の領域でも、インフラ整備を急ピッチで進めている中国の現状から、日本が学べることは多いと思います。もう一点指摘したいのは、労働市場の拡大に伴い、日本では人材サービス業が過剰に発展したために、雇用する側の責任の所在が曖昧になり、結果として受け入れ企業との狭間で不利益を被る外国人就労者が増えているということです。国として、より厳格な制度運用を考える必要があります。また根源的なところでは、専門学校等において、留学生と企業関係者がじかに交流する機会を設けることも大切ですね。

★グローバル人材育成のモデル校を目指す；TSAの人材育成

——TSAが来春新設する「国際コミュニケーション学科」は、まさにそうしたニーズに応えようとする取り組みですが、教育機関として、将来日本社会で活躍できる海外人材を育成していく上で、特に重要な観点はどこにあると考えますか？

**市原：**私たちが目指しているのは、留学生に対して卒業後の就職と進学という「出口」をきちんと提供できる、いわばグローバル人材育成のモデル校です。これは留学生そのものをビジネスの対象とするような発想とは、明確に一線を画しています。新学科の学生構成は日本人学生と留学生が各30名ずつで、少人数クラスによる個別教育を徹底します。まず日本語に関しては、コミュニケーション能力と、ビジネスに即応できる運用能力の向上が主眼ですが、単なる語学力だけではなく、様々な業界の基礎知識を学び、そこで活躍する人々の世界観に接したり、或いは将来の日本企業での就労を念頭に、チーム単位で共通のプロジェクトに取り組んでもらうカリキュラムなどを計画中です。また英語についてもTOEICを全面的に導入し、学生目線で楽しみながら学んでいける仕組みづくりを検討しています。

——グローバル対応がベースにある以上、留学生の卒業後の就職先も、特定の分野や職種にはとどまらず、より幅広い方向性が想定されるのでしょうか？

**市原：**特定分野に特化した専門職ではなく、営業、企画、広報、販売など、いわゆる総合職で活躍できる人材の育成が当校の目指す方向性です。

**稲垣：**総合職がターゲットという点では、まさにそこへの就職を視野に入れた国際コミュニケーションや国際交流系の学部・学科を、大学教育の場で目にする機会も増えていますね。

**市原：**確かに、類似の学科が大学にはいくつか設置されています。一方で専門学校の場合には、総合職に特化した職業教育を行う教育機関がほとんどなく、今回私たちはこうした現状に一石を投じるという趣旨の下、東京都の設置認可を受け、国際コミュニケーション学科の準備を進めています。大学のように、各人の自主性を重んじながら比較的長丁場で学習を進めていくのとは位置づけが異なり、専門学校の場合は2年間という限られた時間の中で、ある程度のスピード感を持たせた教学体制が欠かせません。学校側が学生の背中を後押ししながら、きめ細かくサポートしていく面倒見の良さが求められるでしょう。

——もう一つの「出口」である進学に関しては、どのあたりに特色をもたせた教育を構想していますか？

**市原：**当校を卒業後に、大学への3年次編入学を希望する学生に向けて積極的な支援ができるという点に、新学科の最大の特徴があります。これは日本人学生が中心ですが、留学生の編入学ニーズにも充分に対応が可能です。

★「おしゃれ」と「カッコいい」がキーワード；アニメ・芸能文化と留学生との接点

——留学生等、若者の目線に立つと、和製アニメやJ-POPなど「クールジャパン」と呼ばれる芸能文化領域への関心が非常に高く、日本語学習や日本留学の原動力となっている面もあります。こうしたニーズを、日本語教育や双方の留学交流に活かしていくために、どのようなアプローチが考えられますか？

**稲垣：**若者にとってはいつの時代も、おしゃれにカッコよく、というのが普遍的なキーワードではないでしょうか。留学生の中にも、カッコいい日本語の表現とか、インスタ映えするような日本語を学びたいという人は少なくないでしょう。日本人でも、ハリウッド映画のソフトウェアを有効活用して、留学することなく英語をマスターした人がいるぐらいですから、例えば和製アニメから日本語を学べるようなソフトがあれば、海外の若者たちの学習ニーズに叶っていると思います。

**市原：**アニメはまさに、現代風の表現や若者ことばの宝庫と言えるでしょう。中国でも日本のアニメ文化への関心は非常に高く、世界に冠たるものがあると感じます。また、留学生が学校で学ぶ日本語と、日本人が日常的に使用している日本語との間には多少のギャップがあることも事実で、その隙間を埋める素材としても非常に魅力的ですね。当校は長年にわたってプロの声優を養成してきた学校であり、有効活用できるアニメのコンテンツが備わっています。新学科で計画している「日本文化芸能論」という授業でも、随時、和製アニメを教材に取り上げる予定です。

★日本文化が体現する 国としての魅力を学ぼう；留学生へのメッセージ

——これから日本の専門学校で学び、将来日本社会で活躍を目指す留学生にアドバイスをお願いします。

**稲垣：**国の力というものは経済力だけで推し量れるものではなく、文化や文明の力によるところが大だと思います。日本は戦後、焼け野原の跡から再スタートし、アニメや芸能を中心とした独自の文化を育みながら、平和的な発展を遂げました。フレキシブルな価値観をもつこの国で、平和、規則正しさ、清潔さなど、日本が世界に誇る多くの魅力を学んでいってほしいですね。皆さんの活躍に心からエールを贈りたいと思います。

TSAでは対談していただいた稲垣氏のように各産業界で活躍される方の授業が受けられます。

## 【略歴】 稲垣博司氏

元ソニー・ミュージックエンターテインメント代表取締役副社長  
元ワーナーミュージック・ジャパン代表取締役会長  
元エイベックス・マーケティング代表取締役会長  
現ミラクル・バスアネックス主任研究員

## 市原理事長

九州朝日放送株式会社アナウンス部を経て、  
現在、学校法人東京メディアアカデミー 専門学校 東京声優アカデミー理事長。  
財団法人社会通信教育協会理事、社団法人東京都専修学校各種学校協会評議委員、財団法人日本ファッション教育振興協会理事等を歴任。